

大牟田市健康福祉推進会議 第1回会議資料の事前説明時の委員意見等

※P は、会議資料「大牟田市健康福祉総合計画（素案）」のページ数です。

【全般・構成】

- いろいろな計画をまとめた画期的なものになるため、目標値を設定してしっかり実施することを固めた事業だけではなく、「こういう方向性の事業をしたい」「試しにやってみたい」等の新しいことを考えられるようなものにしてはどうか。
- 言葉遊びではなく実効性のある計画にする必要がある。
- コロナで働き方が変化し、リモートワークなどが進んでいく中で、生活する場として魅力のある大牟田にすることが大切だと思う。
- 構成について：起承転結を踏まえた構成になっていないのではないか。
- 目次の5-1 課題（項目）と5-2 課題は目次として紛らわしく表現を考えたほうがよい。
- 記載内容が、このまま他市の計画としても通用するような計画となっているように思われる。根幹に大牟田なりの考察が必要ではないか。
- 言葉も含めて内容がとても難しい。福祉全般で対象が全世代型のため、団体としての意見が出しづらい。いろんな取組みを行っているが、対象を高齢者とか子どもとかに絞った事業（イベント）が多いし全世代を対象とした運動会は人が集まらないような状況にある。
- 昔に比べると生活困窮など様々な制度が出来て支援につながっている。
- 行政計画は普通に自力で生活できているような人たちにはどうでもいいもの（関わることが少ない）。しかし、要支援者や支援者には重要である。
- 大牟田市が抱えている食生活の問題が解決できるような計画になるようにしたい。
- 障害専門の方からすると内容が薄くなり気になるところである。
- 課題や施策の後に余白を設けて、出された意見を反映できるようにしておく方が良いのではないか。

【第1章】

1 計画の概要

- 色々な分野の計画が1つになるので、入り口の書き方が大事になる。
- 計画策定の趣旨：文章の中ほど、「…対象者別・機能別に整備された公的支援では対応が難しくなっている複数分野の課題を抱えた個人や世帯…」ここでいう具体的課題はどのようなものがあるか。

- 他の計画との関連について：P 7に計画の位置付けが説明されているが、他の計画との関連について記載できないか。(住宅のことについて、住宅マスタープランとはどうつながっているか等)。

2 理念

- P13「社会的障壁が合理的配慮のもとで除去され」という表現は、合理的配慮が個別対応であるため違和感がある。しかし、合理的配慮という言葉は残した方が良いので、削除するようであればそのまま。
- P12の基本理念の言葉をP13の目指す4つの社会のタイトルや説明に入れたほうが良いのではないか。また、「持続可能な地域社会」は何を持続させるのかわからない。P21の取り組むべき課題の(2)(3)の内容を説明に加えるべきではないか。「社会的な障壁」など言葉が全体的に硬い。
- 文章表現など小さなことでもよいのであればP 1 3の「社会的な障壁が除去され」の部分だが、具体的にどんなことが社会的障壁なのか。抽象的表現なので人によってとらえ方は様々だと思う。
- 「人が真ん中のまちづくり」という言葉は、わかりやすく共感できるもの。今後も大事になるので有効活用してほしい。
- 「社会的障壁」という言葉はわかりにくい。使うのであれば注釈が必要。
- 文章の中ほど、・・・個人が抱える生きづらさやリスク・・・とは、
 - ①具体的にどのようなものか。
 - ②また、この文面は、国が言う地域共生社会を考える上での背景ですが、P 1 3の上段、・・・本市における地域共生社会の実現を考える際の背景は具体的にどのような課題があるか。(4本柱との関連)
 - ③上段の文章の中の“社会的孤立”の定義と現状はどうなっているか。
 - ④三つ目の柱の“社会的な障壁”とは具体的にどのようなものか。

3 本市をめぐる状況

- 食育に関する市民アンケートについて：食育を受けている当事者の子どもたちにアンケートをとる必要はなかったか。このようなアンケートはぜひ子どもたちにもとってほしい。これから大牟田市に住んでもらうのは子どもたちであり、子どもが住みたいまちはどのようなまちか、子どもたちが市の計画に興味をもつきっかけになる。

5 取り組むべき課題

- P21の各社会は、P 22以降の各課題の表題として記載しないとわかりにくい。
例)【1】一人ひとりが尊重され、安心できる社会

- (1) 包括的な相談支援体制の構築
- P21 【3】 (1)幅広い参加・就労機会の創出化の「化」はいらない。P25の【3】(1)では、「化」はない。
 - P21 ① (1) 包括的な相談支援体制のイメージは？
 - ② (3)の幸福追求権とは？
 - ③ 【2】(1)の・・・社会環境整備・・・とは、何を指しているか？
 - ④ 【3】“社会的な障壁”とは？
 - ⑤ 【4】福祉・介護人材の育成・確保について目指すゴールは？（具体的な達成目標）
 - P22 課題【1】(1) 包括支援センターに生活支援コーディネーターや地域共創サポーターを配置しているが、これらの役割は、地域のやる気のある方に担わせたほうがうまくいくと思う。
 - 生活支援コーディネーター、地域共創サポーター、相談支援包括化推進員について、具体的な役割が、市民レベルで明確に認識されているか（見えるものになっているか）
 - P23 課題【1】(3)「権利擁護」も大事であるとわかるが、その前の、本人の意思を代弁するような支援も必要だと思う。
 - 「意思決定支援」という言葉は一般的ではない。
 - P23 課題【1】(4) 自殺等の相談を受けるのは重たい、「相談体制の充実」の際には、受ける人のサポートも必要。
 - 自殺予防において、医師の影響大きい。うつ病でもカウンセリング受けられると良いのではないか。P15の自殺の要因が複数あるというのは実感する。
 - 2019年の日経新聞(?)の調査では、2050年の死亡率1位は自殺と想定しているとの結果が出ている。また、がん告知を受けた1年以内に自殺した人の割合は高い。
 - P25 課題【2】(2)「包摂の実現」とは何を具体的にさしているか。
 - P25 課題【2】(3)は、背景で大きなことを述べている。学校教育のことも含んでおり、タイトルがそぐわない。福祉的な視点や制度について、教員にもっと知ってもらいたい。障害があっても一緒にいることが当たり前の状態になることが求められる。
 - 特別支援学校のことをよく知らない保護者が多く、誤解されているように感じる。作品展等では驚くほど良いものが展示されていることもある。もっとうまく交流が図れると良い。学校・学級等に「特別」という言葉が入っていることが良くない。上内小学校のように市内どこからでも通学できる学校とすればよいのでは。
 - 学校では、支援員の配置、福祉実習等を実施している。可能な範囲で実施し

ていることを掲載した方が良いと思う。

- 貧困の連鎖を防ぐ取組み必要。家庭環境の影響大きい。
- 就労支援を行う側は、一時的な事業参加でなく、背景を考えて根本的な解決を目指してもらいたい。
- 「病気・障害を持つ人の教育」の表現がわかりづらい。
- P26 課題【3】(1) 企業としても障害分野、健康分野での関わりを求められることが多くなってきた。健康経営を求められている。
- P26 課題【3】(2) 「バリアフリーなまちづくり」とあるが、学校や公共施設での配慮は足りていない。車いすの生徒がいれば教室を1階にする等の配慮がされるが、保護者が車いすだった場合の配慮はない。
- P27 課題【4】(1) 各避難所の設備等の情報を公開しておく、リスクがある人は事前に調べることができる。地域の建設会社等が持っている資材等も災害時には役立つ資源なので情報共有できると良いのでは。
- P28 課題【4】(2) 人と人との絆が薄くなっているように感じる。まち協活動の後継者不足が課題。
- いつも地域の担い手不足は言われているが、地域のためにとか考えている人はいる。常日頃色んな方に声かけして、巻き込んでいくことが大事。
- 地域行事の参加率が低いのは、公民館への加入率が低いことに起因していることもあるのではないか。
- P28 課題【4】(3) 福祉に関する人材、特に若手の確保が難しい状況で、目先の人材確保だけでなく、どう持続可能にするかが課題。2025年の団塊の世代の問題もあるが、その後その世代も減っていくため、将来を見据えた制度作りをしていく必要がある。そのためには、福祉の従事者や事業者が働きやすい環境を整備する必要がある。
- 筑豊や朝倉の医療関係者と話すと医療人材の不足から地域医療が立ちいかなくなっている話を聞く。大牟田がすぐにそうなるというわけではないが、看護師の不足や薬剤師の募集に対する応募などで苦勞している部分はあるので、福祉介護のみではなく医療人材の確保も含めて考える必要もある。
- 福祉・介護人材の育成・確保について、まだ主要施策は記載されていないが、現場としては人材確保が喫緊の課題。大牟田市で働くところないことがありますよ！という強い魅力がなければ働いてもらえないのではないか。ただでさえ介護職以外も人手不足と言われ、学校も定員割れで、介護の仕事のイメージは良くない。親も子供にさせたいと思う職業ではない中で今後はもっと人手が足りなくなるのではと危惧している。大牟田市独自の施策があるといいなと思う。(家賃の補助など)

- 課題としてあげてある部分は、事前に調査などを実施してあげられたものなのか。そこが読み取れなかった。
- なんでも行政に求める人がいるが、行政は大筋の道筋を示すことが役割であり、詳細は地域で協力してやっていくべきではないか。
- コロナの影響で、企業も社員の健康は重要視されてきた。お金もかけていく必要がある。
- 新型コロナで学校が休みの時の子どもたちの昼ごはんがカップラーメンというのは、どうかと思います。子どもの頃から、自分の食事作りをしっかり教える必要があると思います。実践的な料理が教えられないか悩んでいるところです。農業の継手がないことも大牟田市の問題の一つです。

【第2章】

- 成果指標の妥当性について：数値を挙げることはある程度必要だが、増やす値は本当に正しいのか疑問がある。6年という計画期間で、目標を策定した時と状況は変化すると考えられるし、数を掲げなくていいものは挙げなくてもいいのでは、と思う。("実情に合わせて増やす"等)。
- P13に載っている4つの目指す社会と、P21の取り組むべき4つの課題は同じだが、P32の主要施策は同じ4つだが表現が異なっている。統一した方がわかりやすいのではないか。
- P21の社会とP32の施策はリンクさせて、P32の施策は、
 - 【1】一人ひとりが尊重される社会づくり
 - 【2】健康的で豊かな生活を送ることのできる社会づくり
 - 【3】社会的な障壁が除去され、自ずから思いやりが生まれる社会づくり
 - 【4】持続可能な地域を実現する
 としてはどうか。
- P32【3】(2)社会参加を実現するアクセシビリティのさらなる向上は、P26【3】(2)社会参加しやすい環境づくり(アクセシビリティの向上)と、記載が異なっている。

【第7章】

- 計画を推進するにあたっては、政策マネジメントの部分が大事になる。新しい事業を行うためには体制も必要になるので、このようなことについても記載した方がよいのではないか。